



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

留萌市地球温暖化防止実行計画 留萌市庁内環境率先行動計画



— 平成23年度取組み状況 —

【目次】

I	計画策定の背景	1
II	対象部局と組織体制	1
III	推進目標	3
IV	留萌市地球温暖化防止実行計画の進捗状況	4
V	留萌市庁内環境率先行動計画の進捗状況	10
VI	環境アクションデー実施状況	16
VII	おわりに	17

I 計画策定の背景

留萌市では、当市における環境行政の基となる「留萌市環境基本条例」を平成15年3月に制定し、平成18年3月には「留萌市環境基本計画」を策定しました。

また、「地球温暖化対策の推進に関する法律第8条」に基づき、市民や事業所等が環境保全に対する意識高揚を図るため、市自らが事務・事業に伴って生じる二酸化炭素の排出量を抑制し、環境への負荷を低減することを目的に「留萌市地球温暖化防止実行計画」を平成20年3月に策定しました。

「留萌市地球温暖化防止実行計画」では、ガソリン、灯油等のエネルギーの使用量を、平成18年度を基準年として平成24年度に3%削減することを目標としています。

さらに市では少資源や環境配慮製品の使用促進を目的とした、「留萌市庁内率先行動計画」を策定し「留萌市地球温暖化防止実行計画」と同様に、平成18年度を基準年に使用量の1%削減を目標とした二期目の計画が現在進行中です。

今後、この運動を市民・事業者全体に広げていくため、積極的に情報を発信してまいります。

－ 基本方針 －

市職員自らが、市民の模範となるよう資源やエネルギー消費の抑制、さらに環境配慮製品等の利用を促進するため、主体的に事務の効率化と経費の無駄を排除するよう取り組む。

- (1) 省エネルギーの推進 節電や燃料の使用量の削減に取り組む。
- (2) 省資源の推進 節水や紙の使用量の削減、環境配慮製品等の利用に取り組む。
- (3) 廃棄物抑制の推進 ゴミの減量化、資源化・リサイクルに取り組む。

II 対象部局と組織体制

(1) 対象部局

市役所本庁舎、教育委員会部局、病院施設等、全ての市の施設を対象とします。

(留萌市地球温暖化防止実行計画では、一部施設を対象外としています。)

(2) 組織体制

各部等を実行組織の単位として実施し、各部内に次の者をおきます。

計画推進責任者 (部長の職にある者)	本計画の責任者であり、部等の年度重点目標を設定し、取組み状況の評価及び今後の対応等総括管理をします。 部等の取組み推進に係る指揮、指導及び点検を進めるとともに各課の実績状況を取りまとめ事務局へ報告します。
計画推進管理者 (課長の職にある者)	課等の年度重点方針に基づく重点目標の設定、課内の進行管理をします。
計画実施推進員 (各課庶務担当係長)	課内重点目標の徹底や職員の環境率先行動の推進を図り、取組み状況を報告します。

(3) 計画の実施

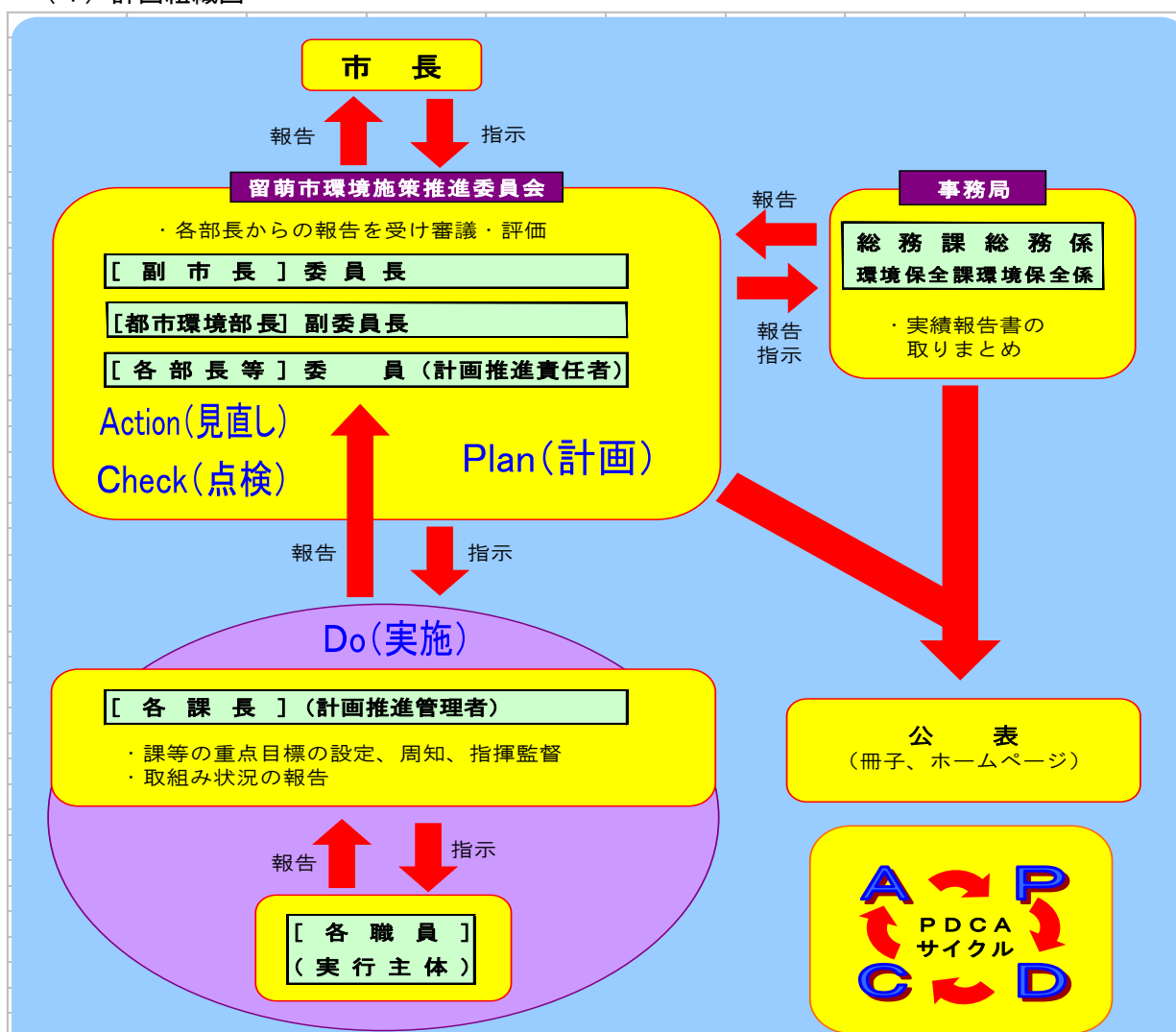
副市長を委員長とし、各部長等で構成する留萌市環境施策推進委員会にて、各部長等からの報告を受け、実績報告（1年）の点検や審議、評価を行います。

この委員会では、是正措置の検討や目標設定の再検討を行いながら、次年度以降の計画実施に活かすこととしており、実績報告については冊子やホームページ等により公表することとします。

○留萌市環境施策推進委員会

委員長	副市長	実行計画の取組み実績について、市長に報告します。
副委員長	都市環境部長	委員長（副市長）を補佐します。
委員 (計画推進責任者)	各部長	委員長（副市長）の指示に基づき、指導、点検及び実績報告書の取りまとめを行なうなど各部等の実行計画の活動を総括します。
計画推進管理者	各課長	留萌市環境施策推進委員会（各部長等）の指示を受け、課等の重点目標を設定し、指揮監督するとともに、取組み状況を報告します。

(4) 計画組織図



Ⅲ 推進目標

次の3つの目標を柱に事務事業を進めます。

① 省エネルギーの推進

市の事務事業において、照明やOA機器、冷暖房、給湯等における電力及び石油、公用車の燃料としてのガソリン等の様々なエネルギーを大量に消費している。

これらのエネルギーの消費量を削減することは、資源消費の削減につながるばかりでなく、温室効果ガスである二酸化炭素の発生を抑制し、地球温暖化防止に寄与することとなることから新エネルギーの積極的な導入を図ることや、事務室内における省エネルギーの取組みを拡大、定着することにより省エネルギーを推進する。

② 省資源の推進

市の事務事業において特に紙類は、大量に消費していることから、紙類の使用量の削減や紙のリサイクルと併せ、再生紙の利用を拡大することにより、森林資源の保全に努める。

また、エコマーク商品等の文具類を積極的に使用することにより、これらの環境配慮製品の消費と普及を図るとともに、安定したリサイクルシステムの形成に努める。

③ 廃棄物抑制の推進

市では、庁内の廃棄物をもやせるごみ、もやせないごみ、資源ごみ（缶類、ビン類）、危険ごみ、生ごみ、ペットボトルに分けて排出し減量化を図っているが、今後さらに用紙類の使用量削減やもやせるごみと古紙との分別の徹底、チューブファイル等の再利用の促進や事務消耗品の在庫管理等を進めることにより減量化を図る。

庁内「4R」チャレンジ

REDUCE（リデュース）…ごみを減らす

REUSE（リユーズ）…再利用する

RECYCLE（リサイクル）…再生利用する

REBUY（リバイ）…環境配慮製品、再生品を購入する



IV 留萌市地球温暖化防止実行計画の進捗状況

(1) 削減数値目標

この実行計画では、平成18年度を基準年度として、平成24年度までに二酸化炭素の排出量を3%削減することを目標としています。

▼削減目標

平成18年度の 二酸化炭素排出量	削減目標・削減量	平成24年度の 二酸化炭素排出量
10,126 t	削減目標 3%削減 削減量 304 t	9,822 t

▼各項目別の使用量・削減目標

項 目	平成18年度 (基準年度)	平成24年度 (目標年度)	削減量
ガソリン	58,465 ㍓	56,711 ㍓	1,754 ㍓
軽油	47,902 ㍓	46,465 ㍓	1,437 ㍓
灯油	277,577 ㍓	269,250 ㍓	8,327 ㍓
A重油	1,590,628 ㍓	1,542,909 ㍓	47,719 ㍓
LPガス	1,535.7 m ³	1,489.6 m ³	46.1 m ³
電気	10,136,224kwh	9,832,137kwh	304,087kwh

▼各項目別の二酸化炭素排出量・削減目標

項 目	平成18年度 (基準年度)	平成24年度 (目標年度)	削減量
ガソリン	135,697 kg	131,626 kg	4,071 kg
軽油	125,455 kg	121,691 kg	3,764 kg
灯油	690,889 kg	670,162 kg	20,727 kg
A重油	4,309,011 kg	4,179,741 kg	129,270 kg
LPガス	9,813 kg	9,519 kg	294 kg
電気	4,855,251 kg	4,709,593 kg	145,658 kg
合計	10,126,116 kg	9,822,332 kg	303,784 kg

(2) 各項目における取組み状況

すでに目標値に到達している項目は「○」、基準年度より削減されていても削減数値目標に到達していない項目は「△」、基準年度より増加してしまった項目は、「×」で表しています。また、使用量は削減されていてもCO₂排出量は増加している項目についても「△」で表しています。

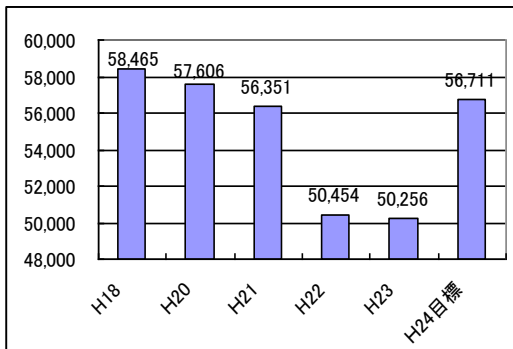
平成23年度の実績では、5項目で目標値を達成しています。

ガソリン

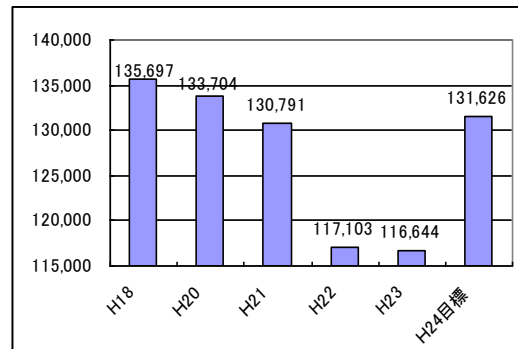
評価...○

	H18年度	H23年度	増減(H23-H18)
使用量	58,465 ㍓	50,256 ㍓	△8,209 ㍓
二酸化炭素排出量	135,697 kg	116,644 kg	△19,053 kg

▼使用量 (単位:㍓)



▼二酸化炭素排出量(単位:kg-CO2)

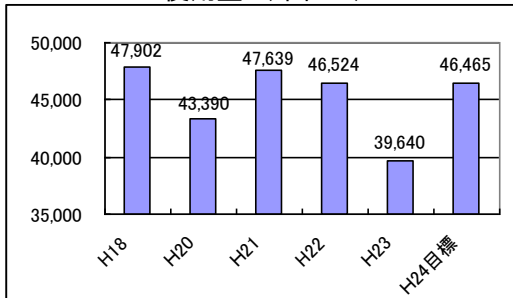


軽油

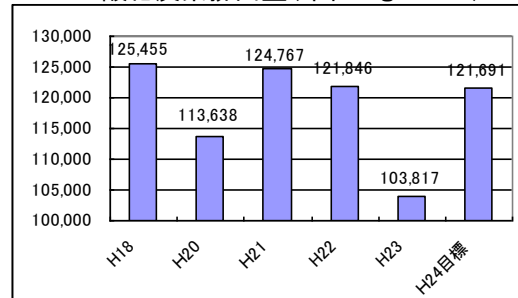
評価...○

	H18年度	H23年度	増減(H23-H18)
使用量	47,902 ㍓	39,640 ㍓	△8,262 ㍓
二酸化炭素排出量	125,455 kg	103,817 kg	△21,638 kg

▼使用量 (単位:㍓)



▼二酸化炭素排出量(単位:kg-CO2)



使用量増減の要因・取組みについて

ガソリン使用量については、基準年度対比では約14%の削減となっています。救急車両の出動回数の増、公用車使用の出張が増えたため、使用量の増加、降雪・災害等の道路パトロールの増加や学校施設の除雪が多く使用量の増加に繋がったものの、ハイブリッド車の導入や各職員のエコドライブの実践により、着実に使用量は削減されています。

軽油については、基準年度対比で17.2%の削減となり、前年度より14.8%の減となっています。エコドライブが実践されているなか、除雪機械の減により使用量が減少しました。

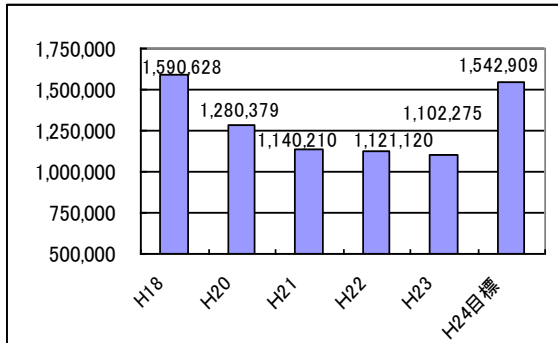
今後も、アイドリングストップ等のエコドライブの励行を継続し、使用量の削減に努めていきます。

重油

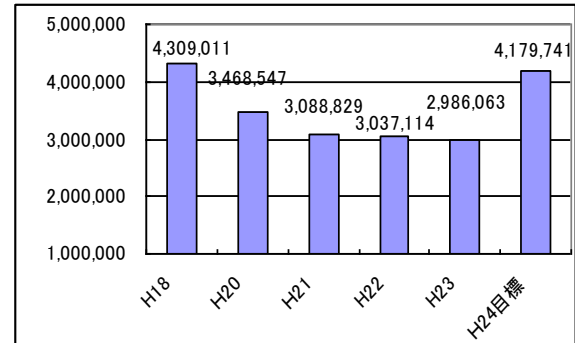
評価...○

	H18年度	H23年度	増減(H23-H18)
使用量	1,590,628 ㍓	1,102,275 ㍓	△488,353 ㍓
二酸化炭素排出量	4,309,011 kg	2,986,063 kg	△1,322,948 kg

▼使用量 (単位:㍓)



▼二酸化炭素排出量(単位:kg-CO2)

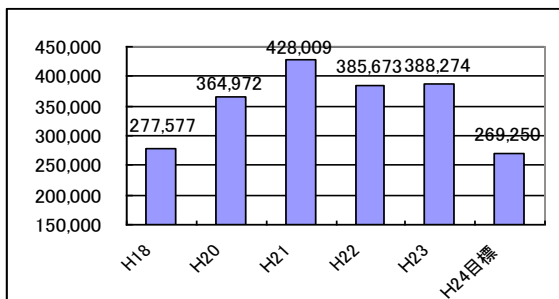


灯油

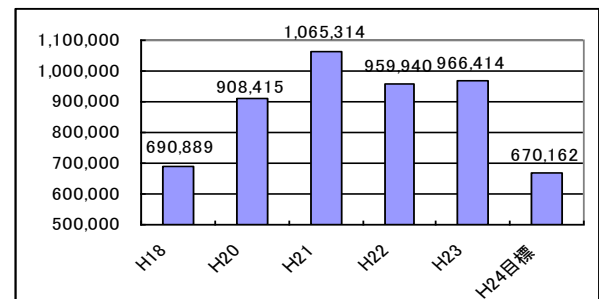
評価...×

	H18年度	H23年度	増減(H23-H18)
使用量	277,577 ㍓	388,274 ㍓	110,697 ㍓
二酸化炭素排出量	690,889 kg	966,414 kg	275,525 kg

▼使用量 (単位:㍓)



▼二酸化炭素排出量(単位:kg-CO2)



使用量増減の要因・取組みについて

重油については、H23年度は基準年度比約30.7%の削減となっています。市立病院では買電を併用し自家発電機の使用を抑制、留萌南部衛生組合でLPガスボイラー設備への変更により使用量は減少、は一とふる、学校など一部施設で使用量の増加が見られましたが、適正温度の設定等、使用量の節約が定着していることもあり、使用量は減少傾向にあります。

灯油については、H20年に行った美サイクル館のボイラー設備の変更もあり、H23年度は基準年度比約39.8%の増加となっています。学校などでは節約に努めたことにより、使用量が減少していますが、例年の冬よりも降雪量の増や平均気温が低かったため、ロードヒーティングや一部の施設で使用量は増えてしまいました。

今後も各施設での適正な温度調整等、ボイラーの管理を適切に行い、使用量の削減に努めます。

WARMBIZ

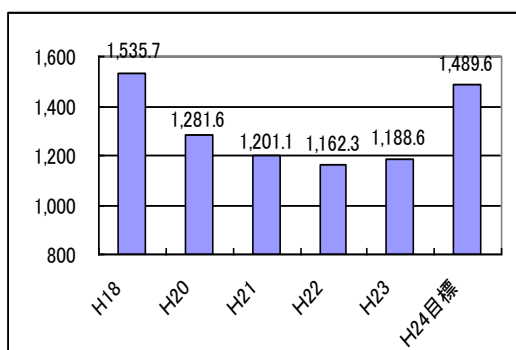
ウォームビズ

液化石油ガス（LPガス）

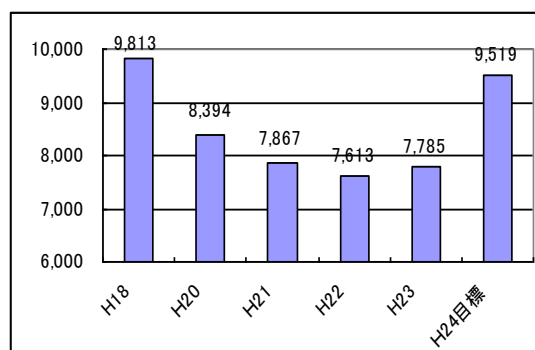
評価…○

	H18年度	H23年度	増減(H23-H18)
使用量	1,535.7 m ³	1,188.6 m ³	△347.1 m ³
二酸化炭素排出量	9,813 kg	7,785 kg	△2,028 kg

▼使用量（単位:m³）



▼二酸化炭素排出量(単位:kg-CO₂)

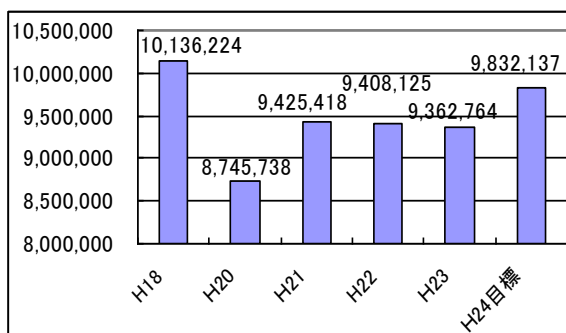


電 気

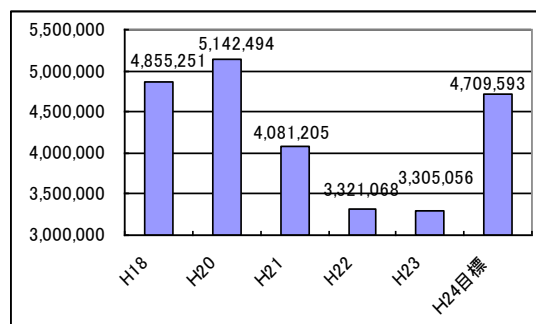
評価…○

	H18年度	H23年度	増減(H23-H18)
使用量	10,136,224 kwh	9,362,764 kwh	△773,460 kwh
二酸化炭素排出量	4,855,251 kg	3,305,056 kg	1,550,195 kg

▼使用量（単位:kwh）



▼二酸化炭素排出量(単位:kg-CO₂)



使用量増減の要因・取組みについて

LPガスについては、基準年対比で約22.6%削減となっています。衛生センターでLPガスのボイラーの稼働により前年度に比べ微増しましたが、今後も各施設での使用量の節約に努めます。

電気については、基準年度対比約7.6%削減されています。ロードヒーティングの老朽化に伴い使用量の増加が見られますが、各施設において節電に努力していることが、減少の要因となっています。

今後も引き続き各施設において節電に努め、使用量の削減を行っていきます。

各エネルギー別CO₂排出量

総合評価…○

各エネルギー使用量を温室効果ガスであるCO₂に換算すると、平成23年度は基準年度より約2,640,000kg(約26%)が削減されました。

項目別の排出量では、基準年度比率で最も削減率が大きかった電気は排出係数の変更により約32%と大きな削減が達成されました。以下、LPガス…約21%、ガソリン…約14%、軽油…17.2%の削減、重油…約31%の削減となっています。

しかし、灯油の排出量については、設備変更により約39%の増加となり、目標値に到達することができなかつたところです。

平成23年度の全体の取組みでは、前年度に引き続き、二酸化炭素総排出量は目標値を超える削減量となっています。今後も各エネルギーの使用量の削減により、二酸化炭素排出量の削減に努めていきます。

[単位:kg-CO₂]

項目	排出係数	H18年度	H23年度	増減 (H23-H18)	H24年度 目標値	評価
ガソリン	2.321kg-CO ₂ /ℓ	135,697	116,644	△19,053	131,626	○
軽油	2.619kg-CO ₂ /ℓ	125,455	103,817	△21,638	121,691	○
灯油	2.489kg-CO ₂ /ℓ	690,889	966,414	275,525	670,162	×
重油	2.709kg-CO ₂ /ℓ	4,309,011	2,986,063	△1,322,948	4,179,741	○
LPガス	6.550kg-CO ₂ /m ³	9,813	7,785	△2,028	9,519	○
電気	0.353kg-CO ₂ /kwh	4,855,251	3,305,056	△1,550,195	4,709,593	○
合計		10,126,116	7,485,779	△2,640,337	9,822,332	○

※① CO₂排出量は、各項目の使用量毎にそれぞれ排出係数を乗じて算定されます。

※② LPガス、電気の排出係数は変動しています。

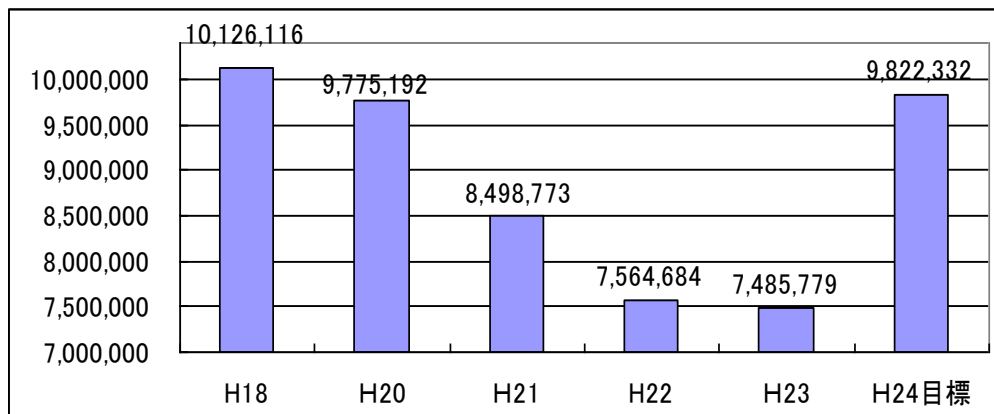
○LPガス…H18年度 6.390kg-CO₂/m³、H20年度 6.550kg-CO₂/m³

○電気…H18年度 0.479kg-CO₂/kwh、H19年度 0.517kg-CO₂/kwh

H20年度 0.588kg-CO₂/kwh、H21年度 0.433kg-CO₂/kwh、

H22年度 0.353kg-CO₂/kwh、H23年度 0.353kg-CO₂/kwh、

▼二酸化炭素排出量(単位:kg-CO₂)



2,640,000kgのCO₂ってどのくらい？

二酸化炭素1kgは、509.1ℓ（気温0℃、1atmの場合）となっており、これは、80cm四方の立法体と同じくらいの大きさになります。これを今回削減されたCO₂に換算すると、約1,344,000m³ → 札幌ドームの85%の容積になります。

（札幌ドーム容積：1,580,000m³）

また、このCO₂約2,640,000kgを1年間に吸収するトドマツは、札幌ドーム約166個分の面積に相当します。

[前提状況]

- ▼ 札幌ドーム（建築面積）を55,000m²とする。
- ▼ トドマツ（50年生、太さ20cm、高さ20m）が1年間に吸収するCO₂の量は、1本当たり4.21kgとする。
- ▼ トドマツ690本で1ha（10,000m²）とする。

※（「森林による二酸化炭素の吸収について〈北海道〉」を参照）

トドマツ10,000m²のCO₂吸収量は、1年間で約2,900kgより

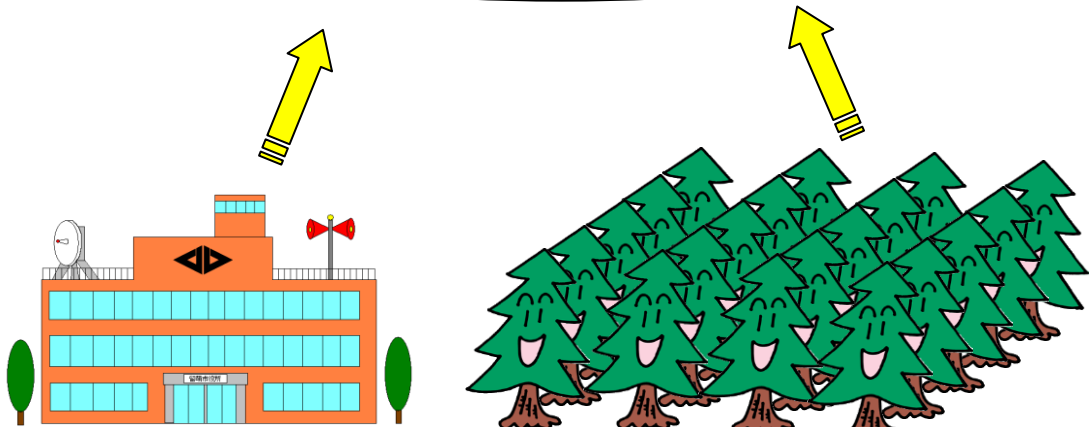
$$2,640,000\text{kg} \div 2,900\text{kg} \doteq 9,103,482\text{m}^2$$
$$9,103,482\text{m}^2 \div 55,000\text{m}^2 \doteq 166\text{個}$$

∴ 二酸化炭素2,640,000kgを吸収するために必要なトドマツは、札幌ドーム約166個分に相当します。

市役所で1年間に削減されたCO₂の量
約2,640,000kg

≒

トドマツ約627,078本
が1年間に吸収するCO₂量
約2,640,000kg



50年生トドマツ 627,078本分
（札幌ドーム 約166個分）

V 留萌市庁内環境率先行動計画の進捗状況

(1) 削減数値目標

この計画では、毎年度、実績報告（1年度分）の点検・評価を行い、是正措置の検討や目標設定の再検討を行いながら、翌年度以降の行動計画に活かしていくこととしています。

第二次となるこの計画では、平成18年度を基準年度として、平成23年度については、下記のとおり目標値を設定しました。

▼各項目別の使用量・削減目標

項 目	目 標 値	達成状況
水道使用量	概ね1%削減するよう努める。	○
用紙使用量	概ね1%削減するよう努める。	○
ごみ排出量	概ね1%削減するよう努める。 ごみ分別について徹底する。	○
環境配慮製品	積極的に環境ラベル商品を購入し、導入率は80%以上にするよう努める。	○
封筒使用量	概ね1%削減するよう努める。 使用済み封筒の有効活用に努める。	×

(2) 各項目における取組み状況

平成23年度の実績状況では、5項目中4項目が達成されました。

各項目とも減少傾向にありますが、封筒使用量では、制度改正等による周知文書、送付封筒作成等による増加要因もあり、削減に苦慮しているところもあります。

評価については、次のとおり表しています。

○	目標値を達成
△	基準年度より削減できたが削減数値目標に到達していない
×	基準年度より増加

各項目別における取組み状況は、次のとおりとなっています。

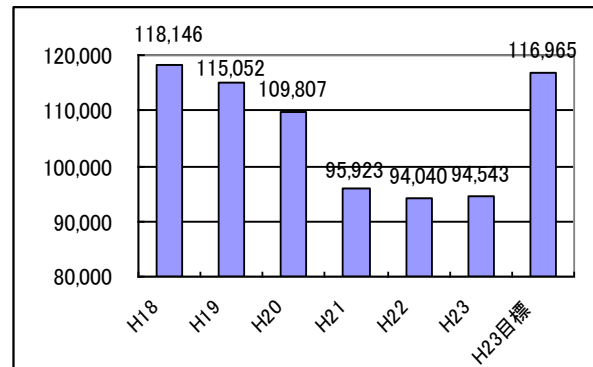


水道使用量

評価…○

	使用量 (t)	基準年度比
H18年度	118,146	
H19年度	115,052	△2.6%
H20年度	109,807	△7.1%
H21年度	95,923	△18.8%
H22年度	94,040	△20.4%
H23年度	94,543	△20.0%
増減(H23-H18)	△23,603	

▼使用量 (単位:t)



使用量増減の要因について

平成23年度は前年度に比べ微増しましたが、基準年度対比で20.0%の使用量が削減されています。

市立病院では入院患者の増加に伴う使用量の増加、衛生センターの新設ボイラーの稼働で増加、市役所庁舎をはじめ、各小中学校や各施設等においては職員の日常的な節水による実践が成果をあげ減少しているところです。

主な取組み内容

日常的な節水を今後も継続する。

水洗トイレの使用にあたっては、必要最小限の流量を心がける。

散水、放水、洗浄については、効果的に実施する。

平均世帯の水道使用量と比較すると

平成23年度は、基準年度対比で23,603 tの使用量が削減されています。

これは、留萌市内の一般家庭…約172世帯が1年間に使用する水量に相当します。

[前提条件]

☆ H23年度住宅等の年間総配水量…1,648,076 (t/年)、給水人口は23,784人

⇒ 1人当たりの平均排水量(住宅等)は、69.29 t/年

☆ 平成23年度末現在総人口…24,036人、世帯数…12,106世帯

⇒ 平均世帯人数は1.98人

以上より、留萌市内一世帯当たりの年間配水量は、

⇒ $69.29 \text{ (t/年)} \times 1.98 \text{ (人)} = 137.19 \approx 137 \text{ (t/年)}$

∴ $23,603 \text{ (t)} \div 137 \text{ (t/年)} = 172.3 \text{ (世帯分)}$ となります。



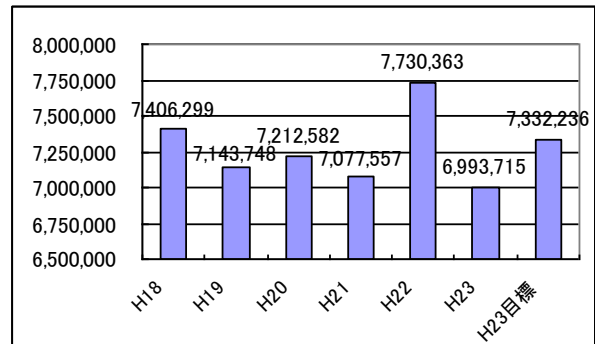
用紙使用量

評価...○

▼用紙使用量

	使用量(枚)	基準年度比
H18年度	7,406,299	
H19年度	7,143,748	△3.5%
H20年度	7,212,582	△2.6%
H21年度	7,077,557	△4.4%
H22年度	7,730,363	104.4%
H23年度	6,993,715	△5.6%
増減(H23-H18)	412,584	

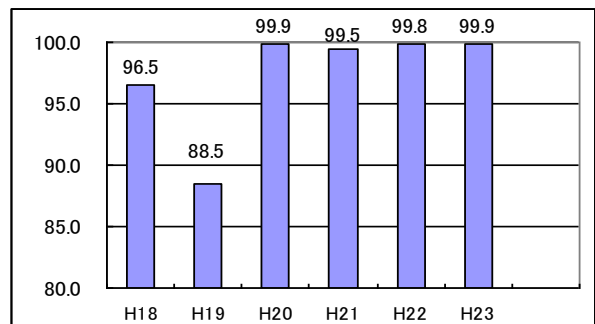
▼用紙使用量 (枚)



▼うち再生紙使用量

	使用量(枚)	再生紙使用率
H18年度	7,147,850	96.5%
H19年度	6,323,137	88.5%
H20年度	7,205,990	99.9%
H21年度	7,040,935	99.5%
H22年度	7,718,095	99.8%
H23年度	6,990,759	99.9%

▼再生紙使用率 (%)



使用量増減の要因について

平成23年度の使用量は、基準年度対比で約5.6%、前年度対比で約9.5%の使用量が減少しています。

制度改正等に係る周知文書、市民を対象としたアンケート調査に伴う用紙や電算システム確認用紙などの使用量は増加傾向にありますが、電子メールで送信される文書等の印刷は裏紙を使用するなどし、職員の日常的な節約、裏紙使用の徹底し、可能な限り内部資料の共有化を図ったことにより使用量の削減に繋がりました。

また、再生紙使用率については、特定の用途で使用できないものを除き、平成23年度は、前年度に引き続き、100%に近い使用率となっています。

今後も再生紙利用の意識を保持し、裏紙利用の徹底等、使用量の削減に努めていきます。

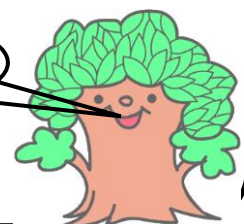
主な取組み内容

特定の用途以外のものは、古紙配合率が高く、白色度が低い再生紙を利用する。

可能な限り資料の共有化、両面印刷により使用枚数の削減に努める。

ミスコピー防止の注意書を表示、庁内LANの利用により使用量の削減を図る。

限りある資源を大切にしましょう

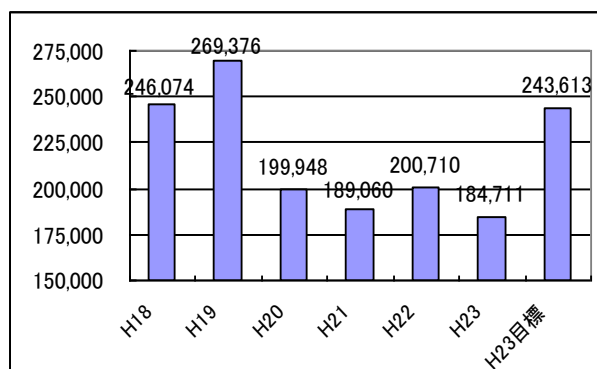


ごみ排出量

評価…○

	排出量 (kg)	基準年度比
H18年度	246,074	
H19年度	269,376	109.5%
H20年度	199,948	△18.7%
H21年度	189,060	△23.1%
H22年度	200,710	△18.4%
H23年度	184,711	△24.9%
増減(H23-H18)	△61,363	

▼ごみ排出量(kg)



排出量増減の要因について

全体の排出量では、基準年度比では約25%の削減率となっています。

教育委員会の学校給食では毎日の献立の工夫や食育指導の継続により生ごみの排出量が大幅に減少しました。

また、各学校で環境率先行動計画の理解が深まったことにより、減少に繋がりました。各施設利用者に係るゴミの持ち帰り、廃棄書類の溶解処分、職員による廃棄分別の徹底も定着され減少傾向にあります。

今後も、ごみ分別の徹底を継続し、物品の再資源化とごみ排出量の削減を図ります。

主な取組み内容

物品の購入は計画的に行い、在庫管理を適切に行う。

物品の使用については、ごみの排出が少ない詰替え商品を利用する等により、可能な限り長期間使用する。

使用済みのプリンター用のトナー・インク、テプラカートリッジは販売業者等にて回収してもらう。

不要、余剰物品は、他の部署にて利用してもらう等、有効活用を図る。

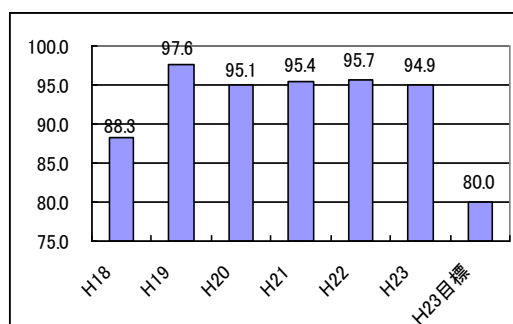


環境配慮製品導入状況

評価…○

	環境配慮製品／物品購入数	導入率
H18年度	26,846 / 30,407	88.3%
H19年度	19,177 / 19,646	97.6%
H20年度	14,965 / 15,739	95.1%
H21年度	15,011 / 15,743	95.4%
H22年度	14,267 / 14,904	95.7%
H23年度	25,108 / 26,467	94.9%

▼環境配慮製品導入率(%)



導入率増減の要因について

環境配慮製品の導入は、基準年度以降、8割以上と高い導入率を維持してきています。

第二次計画についても高い導入率を維持しており、環境配慮製品を導入するという職員の意識が定着し、平成19年度以降は100%に近い導入率を維持しています。

事務用品に占める環境配慮製品の種類もかなり多く、購入される事務用品はほとんどが詰替え用やエコマーク等の環境配慮製品のラベルがついた物品となっています。




主な取組み内容

事務用品やOA機器の導入については、エコマークやエネルギースターマーク等、公的環境ラベル商品を選択します。

作業着はペットボトル再生繊維のものを購入します。

コピー機、プリンター用トナーは、再生トナーを利用し、空カートリッジのリサイクルに努めます。

▼環境配慮製品を選ぶ際に参考となる環境ラベルの一例

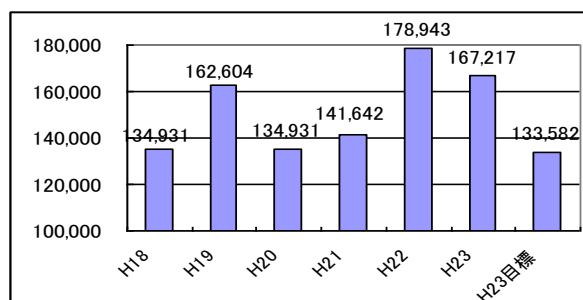
<p>エコマーク</p>  <p>生産から廃棄にわたるライフサイクル全体を通して、環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品（カバンや家具、日用品等）につけられています。</p>	<p>グリーンマーク</p>  <p>トイレットペーパーやコピー用紙等、原料に古紙が規定されている割合以上（原則として40%以上）利用されていることを表示するマークです。</p>
<p>牛乳パック再利用マーク</p>  <p>ティッシュペーパーやフラットファイル等、使用済みの牛乳パックを原料として使用した商品につけられているマークです。</p>	<p>エネルギースターマーク</p>  <p>パソコンやプリンター等のOA機器について稼働時、スリープ・オフ時の消費電力に関する基準を満たしている商品につけられているマークです。</p>

封筒使用量

評価…×

	使用量 (枚)	基準年度比
H18年度	134,931	
H19年度	162,604	120.5%
H20年度	134,931	100.0%
H21年度	141,642	105.0%
H22年度	178,943	132.6%
H23年度	167,217	123.9%
増減(H23-H18)	32,286	

▼封筒使用量(枚)



使用量増減の要因について

H23年度の全体使用量は、基準年度対比…約24%の増加、前年度比…約7%の減少となっております。電算システムの導入による印刷物等の変更に伴い新封筒の印刷、市民への周知文書の増加に伴い使用量の増加傾向にありました。各部署や各学校での封筒の再利用に努めていますが、市民へ新規事業の周知や各書類の送付を行なうため、大幅な削減は困難な状況にあります。町内会宛文書等で封筒を再利用しようとする職員の意識は定着しています。今後は、メールなどを利用して封筒使用の削減に努めます。

主な取り組み内容

町内会回覧や外部機関等への使用済み封筒の再利用を今後も継続する。



項目別使用量等総括

	H18年度	H23年度	増減 (H23-H18)	目標削減量	評価
水道使用量 (t)	118,146	94,543	△23,603	△1,181	○
用紙使用量 (枚)	7,406,299	6,993,715	△412,584	△74,063	○
ごみ排出量 (kg)	246,074	184,711	△61,363	△2,461	○
環境配慮製品 (%)	88.3	94.9		80%以上	○
封筒使用量 (枚)	134,931	167,217	32,286	△1,349	×

第二次計画4年目を向
えて4項目は目標を達成し
た。これからも職員一丸と
なって取り組みます！！



VI 環境アクションデー実施状況

全庁的な環境保全行動の一環として、平成15年5月より毎月の初日を「環境アクションデー」とし、①ノーマイカーデー、②庁舎等周辺清掃、③ノー残業デーの3項目について市役所庁舎をはじめ、はーとふるや市立病院等、各部署にて実施しています。

また、ノーマイカーデーについては、平成19年度までは、毎月初日に実施していましたが、平成20年度から平成22年まで、一カ月間の中で可能な日を一日以上実施するよう変更し実施しました。

これにより、ノーマイカーデーの実施率は大きく向上しました。

なお、平成23年度からはノーマイカーデー等については職員の自主性に任せ、市全体での取組みを平成22年度で終了しております。

実施状況については、次のとおりとなっています。

実践項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
①ノーマイカーデー	全協力台数(延)	2,328台	2,211台	4,449台	4,088台	4,088台	—
	実践率	66.4%	62.7%	85.6%	91.0%	91.0%	—
②庁舎等周辺清掃	全協力者数(延)	533名	494名	416名	289名	289名	—
	収集量	98袋	127袋	74袋	35袋	35袋	—
③ノー残業デー	全協力者数(延)	3,733名	3,582名	4,901名	3,841名	3,841名	—
	実践率	90.7%	88.2%	99.2%	96.1%	96.1%	—

※ ノーマイカーデーについては、理由がある車両利用者や出張者、欠席者等は考慮せず、単純集計したものですので、参考値として見て下さい。

☆ 環境アクションデー実施施設（全17施設）

市役所庁舎、美サイクル館、はーとふる、給食センター、各小中学校、市立病院、消防本部

一人ひとりの取組みが
地球温暖化の防止につ
ながるんだ。



Ⅶ おわりに

平成18年度を基準年度とした4年目の取組みが終了し、留萌市地球温暖化防止実行計画では、基準年度比で当初計画を上回る約26%のCO₂排出量が削減され、大きな成果があげられました。

また、留萌市庁内環境率先行動計画においても、5項目中4項目が目標達成され、温暖化対策と併せて、職員一丸となって取組んできた結果であることと受け止めています。

最後に、この冊子を通じて、市民や事業者のみなさんが地球温暖化等、現在抱えている様々な環境問題について、話し合う機会を持って頂ければと思います。

本計画について、ご意見やご提言がありましたら、下記までご連絡ください。



事 務 局

留萌市役所

都市環境部環境保全課環境保全係 TEL (0164) 42-1806 (課直通)

総務部総務課総務係 TEL (0164) 42-1801 (課直通)

FAX (0164) 43-8778

U R L [http:// e-rumoi.jp](http://e-rumoi.jp)

E-mail rumoi-city@e-rumoi.jp (代表)

seikatukankyoku@e-rumoi.jp (環境保全課)

soumu@e-rumoi.jp (総務課)

